

職務経歴書

2009/01/01

氏名： (29歳)

自己PR

私は、車載部品の量産開発を担当してまいりました。鉄から樹脂に至るまで幅広い設計ノウハウが必要とされた為、社内外からも注目度の高い部品でした。

そのような難度の高い部品を、自らがコントロール、設計した部品を量産出来た経験こそが私の最大の強みでございます。

また、機種の中には大幅なコストダウンを図る為、生産技術、材料研究部と協力し合い、社内で初の樹脂材の量産適応や、焼入れの新製法の量産適応を成功させた実績もあります。

開発途中に不具合が生じた時は、関係部門との連携を取り、不具合の解析を迅速に行って解決してきました。

Point 1

自らの強み（専門性）を表現する。

Point 2

業務範囲を記す。面接でも必ず業務範囲についての質問があります。

専門分野・専門技術分野

➤ 車載機構部品の量産設計開発

➤ 担当業務

1. 部品設計

➤ 樹脂部品(ウォームホイール、デフレクター)

➤ 焼結部品(インナーハブ)

2. ASSY システム設計

3. 量産フロー(企画～開発・設計～量産)の実業務経験

4. 先行開発フロー(企画～開発・設計、テスト)の実業務経験

Point 3

これまで開発を担当した製品及び開発ツールを明記。この部分が職務経歴書で最も重要。

➤ 保有技術

1. CATIA Ver4...2D、CATIA Ver5...2D、3D、GPS)による設計・解析

2. 不具合品の解析、処置方法

Point 4

新しい経歴から順番に明記。なぜなら、企業が最も知りたい情報は直近の業務内容だからです。転職回数が少ない場合に限り。

職務経歴

社 (新しい職務経歴順に明記)

時期	内容
20XX年3月 ～ 現在	車載機構部品に関する研究 <概要> 異音(打音)に関する先行開発のプロジェクトリーダーとして、歯当りの解析や打音改善の対策手法の検討に従事 <担当業務> ・ 打音のメカニズム解析 ・ 減速機部品(ウォームホイール)の歯当り解析、最適歯型的设计 ・ 客先との整合及び業務調整 <開発環境> CATIA Ver4 (2D)、CATIA Ver5 (2D、3D) <PJ規模> 開発プロジェクトリーダー・メンバー数(4名)

Point 5

どんな製品を、誰と、どのように進めたか、成果はどうだったのか、を具体的に明記する。面接では職務経歴の内容に基づき、技術員から具体的な質問が想定されます。より具体的に明記することをお勧めします。

<p>20XX年1月 ～ 20XX年3月</p>	<p>車載機構部品の設計</p> <p><概要> 車載機構部品のシステム要件を各部品に落とし込み、FTA・FMEAを実施して各部品の強度・耐久性、レイアウトの検討、及び、コスト検証、作りやすさまで検証し、図面を作成。また、開発中のトラブル対応等も含む。</p> <p><担当業務></p> <ul style="list-style-type: none"> 部品設計（鉄系鍛造・プレス・加工部品(ウォームギヤ・ボールネジ、インナーハブ) 機構部品システムから各部品への性能落とし込み 協力メーカーとの仕様・コスト整合及び業務調整 現場との仕様・コスト整合及び業務調整 客先との仕様整合及び業務調整 設計試算算出からコストの妥当性検証 開発不具合解析、解析に伴う対応 市場クレーム品解析、解析に伴う対応 開発内容の上部役員への報告及び指図対応 テスト用ジグ考案～手配、納期調整 特許考案 <p><開発環境> CATIA Ver4 (2D)、CATIA Ver5 (2D、3D、FEM解析)</p> <p><PJ規模> 部品開発担当・メンバー数(3名)</p>
<p>20XX年9月 ～ 20XX年12月</p>	<p>車載機構部品の開発(先行開発)</p> <p><担当業務></p> <ul style="list-style-type: none"> レイアウト・システム設計 部品設計(焼結部品、ゴム部品(ベルト)、鉄系加工・プレス部品(ボールネジ、歯車)、樹脂部品(リテーナー)、ボルト、ナット) 試作品の設計、作図、手配 協力メーカーとの仕様整合及び業務調整 開発内容の上部役員への報告及び指図対応 <p><開発環境> CATIA Ver5 (2D、3D)</p> <p><PJ規模> 開発担当(10名)</p>

Point 6
要件確認の工程への対応を詳細に記す。
安易な工程管理の項目名で記すと選考者は何を経験しているかを判断できない。
製品ごとの対応を記すことで、担当業務が明確にされています。

書類選考通過への 重要 Point !

書類選考通過する為には以下3つがポイントとなります。

- 1) 抽象的な表現は避け、具体的な職務内容を記述すること
- 2) 専門領域を明確にすること
- 3) 退職理由、志望動機など整合性に注意すること

以上